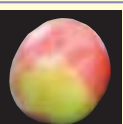
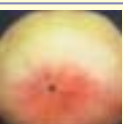
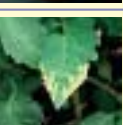


障 害	原 因	対 策	活用資材案
 チャック果 (1～3段) 花落ち部が 大きい果実	・低温育苗。 ・育苗期のおおれ。 ・育苗床土の肥料が多い。	・低温育苗、極端な苗のおおれは厳禁。 ・床土EC0.6～0.7とし、チッソ過多にしない。	・硝酸イオンメータ(土壌用)… 作付前にチェック。 ・タキイ育苗培土… 肥培管理しやすい人工培土。 ・スカイテック… 夜間に被覆し空気層を作って保温。
 チャック果 (4段以降)	・定植時の活着不良。 ・本圃での低温。 ・過繁茂な栽培。	・開花苗の定植。 ・冷え込む日はハウスの保温に努める。 ・急激にチッソを効かせない。 ・元肥を抑えた追肥重点型の肥培管理。	・ピアレスフィルム… 熱が逃げるのを減らす。 ・ノーデンマット… サーモとセットで育苗床の温度管理。
 空洞果	・ホルモン処理のタイミングが早い。 ・ホルモン剤の濃度が濃い。 ・過繁茂な栽培(低～中段果房)。 ・草勢の低下(上段果房)。	・3花咲きの花房に処理する。 ・トマトーンは最高気温の5倍の濃度(80～150倍)。 ・シベレリンの混用(7～10ppm)。 ・適切な肥培管理で、安定した草勢を維持する。	・マルハナバチ…花粉が出ているときに。ネット展張要 ・ぶんぶん太助…花粉が出ているとき、 ハチが飛びにくい時にも。 ※1段目は確実に着果させる必要があるため、 ホルモン処理推奨。
 しり腐果	・カルシウム不足。 ・極端なおおれ。 ・チッソ過剰。	・適切な灌水管理で、しおれさせない。 ・カルシウムの葉面散布。 ・チッソ過多にしない。 ※Ca欠が出てからでは治らないので予防が重要。	・カルシウムエキス…カルシウム8% ・バイオダルマ…有機態カルシウムが豊富、元肥に ・ドリップファーム5号… カルシウム豊富で速効性の液肥追肥
 ケロイド状果	・開花4日前～開花までに最低気温が4℃以下になり、子房(幼果)に花弁が付着して、その個所がケロイド状になる。	・ハウスの保温に努め、気温の低下を防ぐ。	・ダンビーノ… 特に保温効果が高い農ビ ・スカイテック… 夜間の内張り
 あんこ果	・ホウ素欠乏。 ・高温、乾燥の栽培条件。	・土壌水分、空気湿度を適湿に保つ。 ・発生が懸念される栽培条件なら、 早めにホウ素の葉面散布を行う。	・エバハウスAエキス… ホウ素1.5%。
 グリーンバック果 (肩部の緑部分が 残り、黄化した果実)	・葉からの水分蒸散量に比べて、 根からの水分吸収が悪い。 ・チッソ肥料が過剰で、 水揚げが悪い。	・追肥を控えて5～7日間灌水のみを行う。 ・樹上で着色させてから収穫する。 ・抑制栽培での元肥過多に注意する。	・硝酸イオンメータ (土壌用)…元肥量を調整する。 (植物体用)…生育診断に。
 着色不良果	・チッソ肥料が過剰で、 グリーンバック果になる。 ・収穫直前の急激な高温。	・元肥の適正施用。一度に多量の追肥を行わない。 特にアンモニア態チッソは着色不良果になりやすい。 ・ハウスの換気に努め、高温にならないように注意する。 ・抑制栽培での元肥過多に注意する。	・トマト元気液肥… カリの拮抗作用で、 チッソの過剰吸収を抑制。
 軟化玉	・土壌の乾燥と過湿の繰り返し。 ・地下水位が高く、土壌水分が多い。 ・春先のハウス内の蒸し込み。	・圃場が乾燥している場合は一度に多量の 灌水を行わない。真水での灌水は避ける。 ・促成栽培において、春先のハウスの換気を 十分にを行う。	・ドリップファーム2号… 元肥を抑えて投入し、速効性で 硝酸態チッソの多いDF2号で 追肥する。
 すじ腐れ果	・少日照期のチッソ過剰が原因。 春先に地温上昇で根が活発に活動しチッソを盛んに吸収する。3～4月に出現する。	・元肥のチッソ量を控える。 ・1回当りの追肥量を減らして 少量多回数の灌水・追肥とする。	・ドリップファームシステム… 液肥での少量多頻度灌水で コントロールし易い。
 放射状裂果 (果皮の早期硬化) による裂果	・果実は肥大期、白熟期、着色期と経過するが、7月下旬ごろに開花した果実が、高温により果実内部が充実する前に白熟期となった場合、果皮の弾力がなくなり裂果する。	・十分な換気を行う。 ・梅雨明けからお盆までの高温期に、 ハウスを遮光する。 ・高温期(28℃)に水分が不足すると白熟期が促進されるので、灌水量を多くする。	・タキイホワイト… 高温対策、蒸散量の抑制。 明るさを確保したまま温度を 下げることができる。
 輪状裂果 (低温による裂果)	・最低気温が14℃以下になる9月下旬以降に、果皮が硬化し弾力がなくなる。 ・特に多チッソ、多水分の場合に助長される。	・秋口の冷え込む時期は、 ハウス内の保温に努める。 ・ハウス内の早朝加温。 ・最終果房の着果後は追肥をしない。	・新換扇DX… ハウス内の空気をかくはんし均一に。 ・霧霧舞DX… ファンの効果と細霧冷房効果。 ※ハウス内高温対策(P.7)参照。
 葉先枯れ	・カリウムの欠乏症状。 ・地温の高・低温、土壌の乾・過湿による根の傷み。 ^A	・地温、土壌湿度の適正な管理。 ・枯れ葉の摘み取り。 ・カリウムの葉面散布。	・タイベックマルチ(高温時)…熱を反射し地温抑制。 ・保温強化マルチ(低温時)…熱を逃がしにくく夜間の地温確保。 ・トマト元気液肥…4～5段花房の開花期に。 ・ヨーゲンハイパー、ヨーゲンリッチ… 週1回程度、定期的に葉面散布。
 連続果房 形成による 芯止まり (5～7段果房)	・3段花房開花前後の強勢状態から急速に草勢が低下し、花芽が連続形成され、生長点が退化する。	・定植後の初期草勢を抑える。 ・若苗の定植厳禁。 ・元肥を抑えた、追肥重点型の肥培管理をする。	・ヨーゲン強力2号…(N:P:K=30:10:10)葉面散布 ・ドリップファーム2号…(N:P:K=13:8:25)液肥追肥 ※樹勢が落ち始める前に早目に対応する。

で注意:これらは代表的な事例を紹介しています。症状は複合的に生じる場合があるので、状況に応じ対処してください。

〈タキイ最前線'07年秋号より引用・追加〉

^A 冬場は地温を極端に下げないようにするため、灌水は晴天日の午前中に行い、灌水量は1株500ml程度までにとどめます。